

久留米市では数多くの戦争関連資料を所蔵しています。例年、学校や地域団体から、平和学習や戦争体験の講話等で資料を活用したいとの要望を受け、資料の貸し出しを行っています。

今年度は、核兵器の恐怖や悲惨な戦争体験の風化防止を目的とした「くるめ愛と平和の祭典・ピースフルくるめ」の一環として行われたイベント「第30回平和を語る夕べ」に、千人針や防空頭巾、焼夷弾の破片などを貸し出しました。こうした活用は、市民の方に戦争の恐ろしさや平和の尊さを伝える大切な機会となっています。



焼夷弾の破片
昭和20年（1945）8月11日の空襲の際に焼死した男性の頭部から発見されたもの

海外から調査訪問

～陸軍第18師団の研究とその経緯～

ノースウェスタン大学歴史部大学院生

リン・シーミンさん

シンガポール人のリンさんは現在、陸軍第18師団の歴史をテーマとする博士論文に取り組んでいます。第18師団は久留米市に司令部が置かれ、第二次世界大戦では東南アジアに侵攻し、シンガポールを占領しました。

2023年7月、久留米市内に伝わる第18師団の資料を調査するため、リンさんは文化財収蔵館を訪れました。

——第18師団を研究しようと思ったきっかけは？

第二次世界大戦で多くの犠牲者が出たシンガポールにとって、第18師団による侵攻は歴史的に重要な出来事でした。シンガポール人はこの歴史を覚えています。70年以上の年月を経て、現在、シンガポールと日本は友好関係を保ち、特に若い世代は日本の文化に興味を持っています。

私は大学の卒業論文執筆の際、元日本兵の回想録を読み、シンガポールに来た日本兵についてもっと調べたくなりました。彼らの故郷や戦後の生活、戦争に対する考えにも関心があります。戦後、シンガポールを訪れたことはあるのでしょうか。博士論文では、元日本兵の経験が戦後の日本と東南アジアに与えた影響について、第18師団を中心に研究を進めています。

——日本とは以前から縁があったそうですね

日本に関心を持ったきっかけは、多くの東南アジアの若い世代と同じくアニメやマンガ、そして日本の食文化でした。2012年に初めて、友人とともに

日本を訪れました。美しい景色をたくさん観て、親切な人々に会い、今でも感謝しています。それ以来、何度も日本を訪れ、各地を旅しました。2017～2019年には、北海道で英語教師として勤めました。それらの経験を通して、日本の歴史、政治や経済などについて、より学術的な見地から興味を持つようになりました。

——久留米市を訪れ、現地を調査した感想を教えてください

直前に東京に滞在していたこともあって、久留米市はとても穏やかな土地柄だと感じました。市内には1945年以前の日本軍、第18師団の活動に伴う記念碑が多く残されており、非常に興味深いです。外国人にはまだあまり知られていませんが、歴史の魅力が詰まった地域だと思います。

今回は短い滞在でしたが、久留米の郷土史、経済、文化についてもっと学びたいです。また機会があれば、久留米市を訪れ、元日本兵のご家族と話をしたいと思っています。



2023年7月にリンさんが撮影した写真。左は研究テーマである第18師団の記念碑。右は「散歩中に撮ったお気に入りの写真です。」とのこと。